

講義年月日：2005年10月12日（水）

講師：阿久津興一氏（法政大学図書館事務部長）

テーマ：プロフェッショナルとしての大学行政管理職員(Administrator)を目指そう！

- 護送船団思想からの脱却 -

I 大学業界をとり巻く環境

1. 日本の総人口の減少と高齢社会

2. 大競争時代へ - 競争相手は国内だけではない -

1) 国内

4年生大学の増加。学部教育から専門職大学院・大学院へのシフト。規制緩和。

2) 外国

有力大学の日本進出(受験生勧誘)。ITの進展によるボーダレス化。世界基準の設定。

3. 他産業と比較して高待遇 法政大学を例として

1) 勤務時間

2) 長期休暇

3) 高賃金

4) 給与は査定による減額はない(欠勤は除く)。また降級もない。

5) 定年は平等に65歳(役職のままの大学も出てきている)

4. 大学の倒産 - 解散命令・民事再生法・廃校 要因

1) 経営者の選ばれ方

2) 学歴社会・受験戦争の恩恵

3) 民主的な経営者

5. 職員一人ひとりの意識改革

1) 護送船団思考からの脱却

他大学の動向を伺わなくてもよい。前例がなかったら自ら行う。

2) プロフェッショナルとしての大学行政管理職員(Administrator)

大学行政管理学会、立命館大学「大学行政研究・研修センター」

法政大学図書館の業務委託

1. 業務委託の範囲

1) 2003年度から3キャンパスの図書館でのカウンター・閲覧業務の委託

2) 2004年度からすべての「図書・資料」などの「発注・装備・納品・配架」までを一社に一括委託

2. 業務委託の目的

1) コスト削減を主目的にするのではなく、利用者サービスの向上

2) 複雑な雇用関係の解消 図書館職員が第二人事部的役割、職場環境の改善

専任職員、専任出納員、事務嘱託、嘱託出納員、臨時職員(最長10ヶ月雇用、

残りの2ヶ月は別途採用。 1週間継続雇用は認めていない。3日と2日と分けて雇用。)

3. 業務委託のメリット

1) サービスの向上(劇的な変化)

一例として、開館日・開館時間の拡大。入館者数の増加。図書の発注から納品・装備・配架までが大幅に短縮。

2) 職場環境の改善

業務改革が円滑に進む。複雑な職場環境の解消。

3) コストの削減

専任職員のパワーシフト(48名 30名体制)。専任職員の時間外勤務時間の減少。

4) 補助金の獲得

「サービスの向上」に対する補助

4. 法政大学図書館が目指す方向

1) 法政大学中期将来計画

2010年までの重点事業を明示。図書館員の専門性と人材育成。

2) 専任職員はコア業務

多摩図書館での「ゼミ担当制度」など

5. 今後の課題

1) 図書館職員の育成

(1) 図書館用語に習熟し、現在の電子化状況を理解し、かつ国際化に対応できる職員

(2) マネージメント能力の高い職員。

以上